

4.4 騒音・振動・低周波音

4.4.1 騒音

(1) 現況調査

ア. 騒音の状況

騒音等の現地調査位置は、図 4.4.1-1 に示すとおりである。

現地調査結果は、表 4.4.1-1 に示すとおりである。計画地内の環境騒音は地点 A で昼間 57dB であり、環境基準を満足していた。道路交通騒音は No.1 で昼間 70dB、No.2 で昼間 67dB であり、No.1 及び No.2 は、環境基準を満足していた。

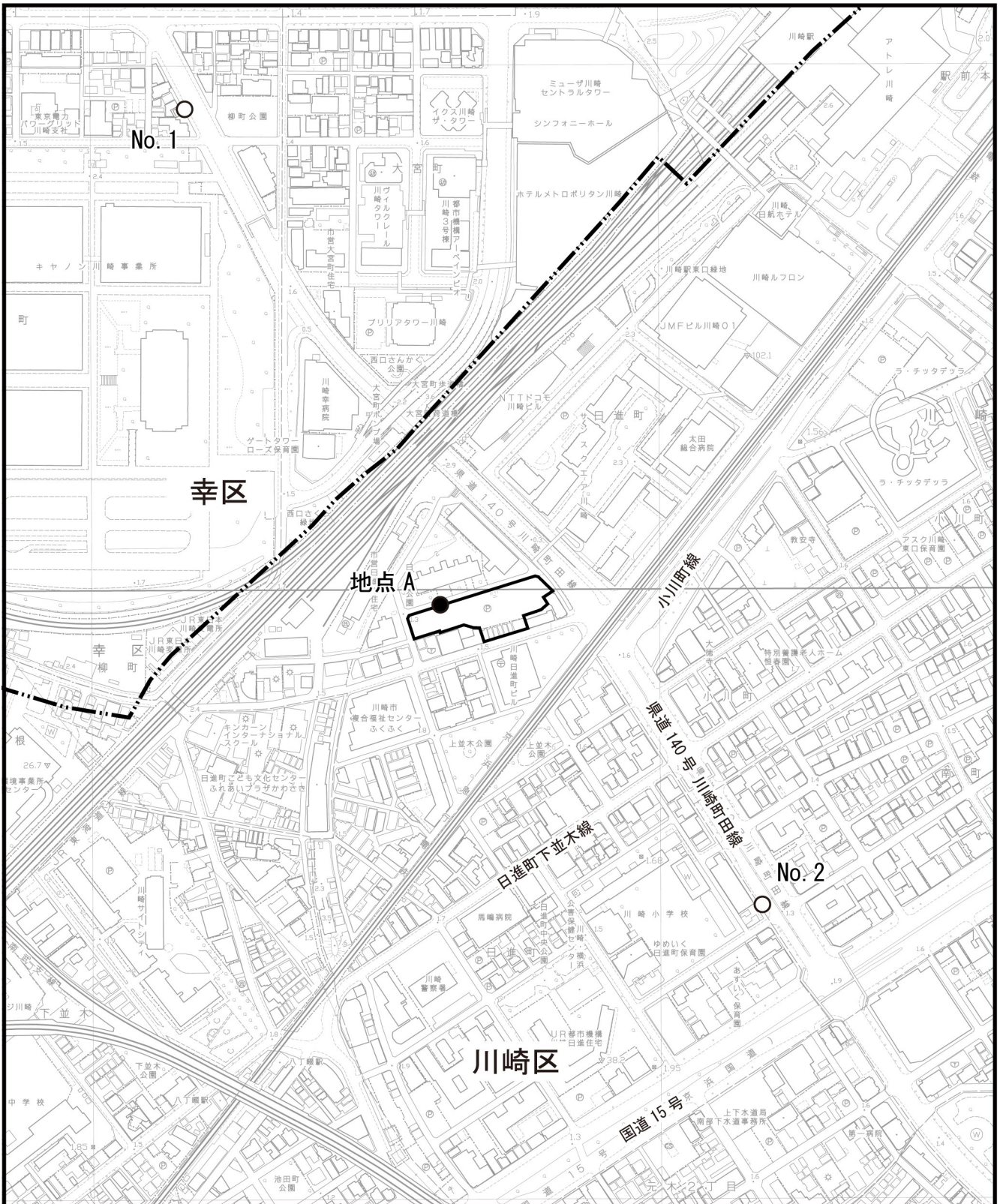
表 4.4.1-1 騒音の現地調査結果（等価騒音レベル）

（単位：dB）





区分		時間区分	調査結果	環境基準
環境騒音	地点 A	昼間	57	60
道路交通騒音	No. 1	昼間	70	70
	No. 2	昼間	67	70

注 1) 環境基準について、地点 A は用途地域が商業地域であるため C 類型の値をあてはめた。No.1 及び No.2 は幹線交通を担う道路に近接する空間であるため特例の値をあてはめた。

2) 昼間は 6 時から 22 時である。



凡例

-  計画地
-  区界
-  一般環境騒音・振動調査地点 (地点 A)
-  道路交通騒音・振動、自動車交通量等 (No. 1、No. 2)



Scale 1:5,000



図 4.4.1-1 騒音等の現地調査位置

(2) 予測、環境保全のための措置及び評価

ア. 建設機械の稼働による騒音

(ア) 予測

建設機械の稼働による騒音の予測結果は、表 4.4.1-2 及び図 4.4.1-2 に示すとおりである。

計画地南側の敷地境界付近における騒音レベルの最大値は 65dB であり、環境保全目標 (85dB 以下) を下回ると予測する。

表 4.4.1-2 建設機械の稼働による騒音の予測結果

(単位：dB)

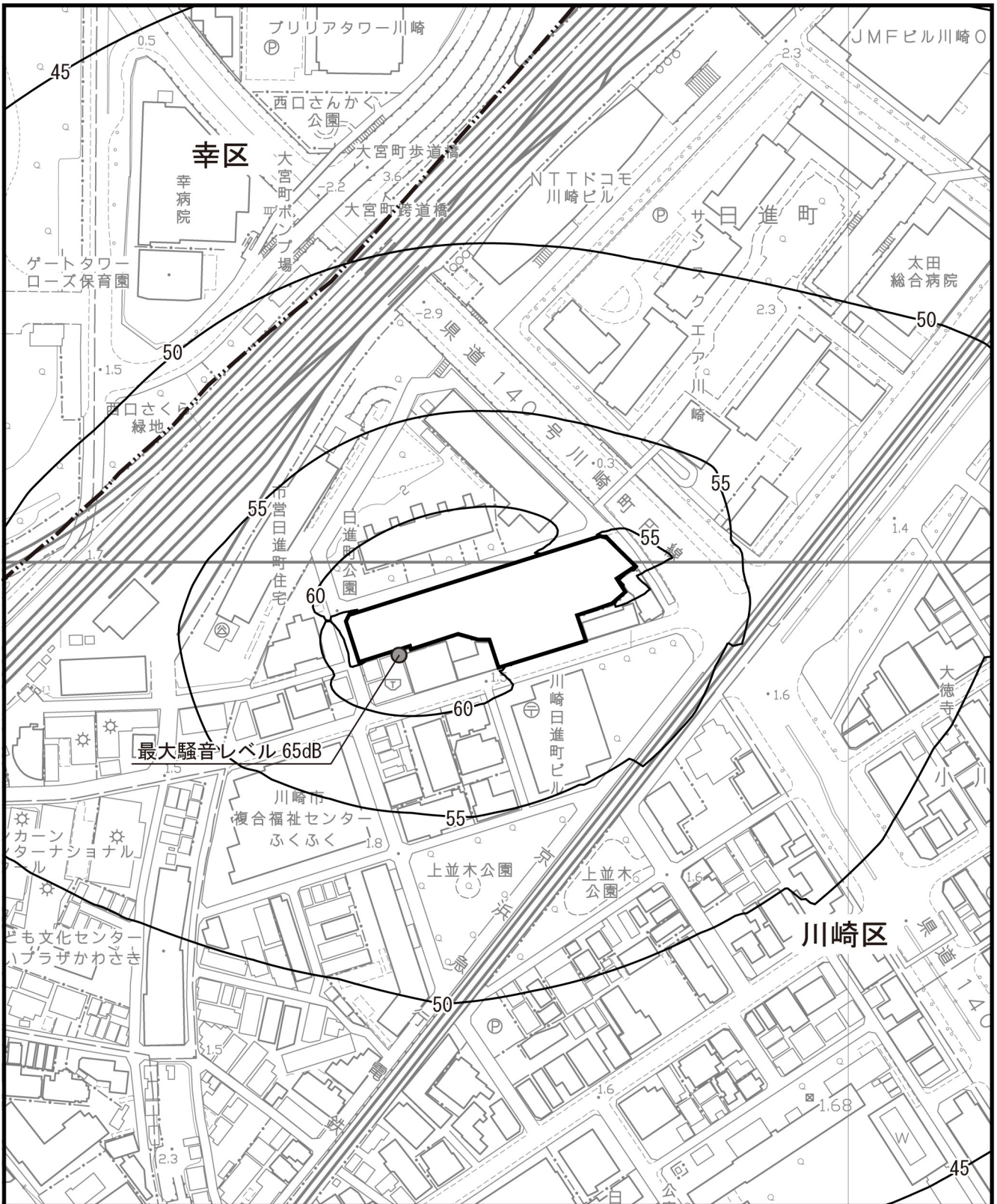
予測時期	予測地点	騒音レベル	環境保全目標
33ヶ月目	計画地南側敷地境界付近	65	85以下

(イ) 評価

計画地南側の敷地境界付近における騒音レベルの最大値は 65dB であり、環境保全目標 (85dB 以下) を下回ると予測する。

建設機械の稼働にあたっては、可能な限り最新の低騒音型建設機械を使用する等の環境保全のための措置を講じる。

以上のことから、周辺地域の生活環境の保全に支障はないものと評価する。



凡 例

- 計画地
- 区界
- 最大騒音レベルの出現地点 (65dB)
- 建設機械の騒音レベル (dB)



Scale 1:2,500



図4.4.1-2 建設作業騒音予測結果
(工事着工後33ヶ月目)

イ. 工事用車両の走行による騒音

(ア) 予測

工事用車両の走行による騒音の予測結果は、表 4.4.1-3 に示すとおりである。

工事用車両走行時の騒音レベルは、No.1 の西側で 70dB、No.2 の両側で 67dB と環境保全目標（70dB 以下）を満足する。No.1 の東側では 71dB と環境保全目標（70dB 以下）を超過しているものの、将来一般交通量による等価騒音レベルにおいて既に環境基準値を超過しており、工事用車両の上乗せによる騒音レベルの増加分は 1dB 未満であることから、周辺の騒音レベルに大きな影響を及ぼすことはないと予測する。

表 4.4.1-3 工事用車両の走行による騒音の予測結果

(単位：dB)

予測地点	調査結果	予測計算値	補正值	予測計算値 (L _{Aeq})		予測結果 (L _{Aeq})			環境保全目標	
	(L _{Aeq})	(L _{Aeq})	(L _{Aeq})	将来一般交通量による等価騒音レベル	工事中交通量による等価騒音レベル	将来一般交通量による等価騒音レベル	工事中交通量による等価騒音レベル	工事用車両の走行に伴う等価騒音レベルの増加		
	①	②	③ (①-②)	④	⑤	⑥ (④+③)	⑦ (⑤+③)	⑧-⑥		
No.1	西側	70 (70.2)	72 (72.4)	-2 (-2.2)	72 (72.4)	72 (72.5)	70 (70.2)	70 (70.3)	1 未満 (0.1)	70 以下
	東側	—	73 (73.0)	—	73 (73.0)	73 (73.0)	71 (70.8)	71 (70.8)	1 未満 (0.0)	
No.2	西側	67 (67.4)	71 (71.3)	-4 (-3.9)	71 (71.3)	71 (71.4)	67 (67.4)	67 (67.5)	1 未満 (0.1)	
	東側	—	71 (70.8)	—	71 (70.8)	71 (70.8)	67 (66.9)	67 (66.9)	1 未満 (0.0)	

注1) 括弧内の数字は、小数点以下第1位までの表記を併記したものである。

注2) 補正值は、車線数が異なるものの道路両側の沿道状況がほぼ同様であったため、現地調査側の補正值を、現地調査を行っていない側（反対車線側）の補正值として適用した。

注3) 網掛けは、環境保全目標を上回っている値を示す。

(イ) 評価

工事用車両走行時の騒音レベルは、No.1 の西側で 70dB、No.2 の両側で 67dB と環境保全目標（70dB 以下）を満足する。No.1 の東側では 71dB と環境保全目標（70dB 以下）を超過しているものの、将来一般交通量による等価騒音レベルにおいて既に環境基準値を超過しており、工事用車両の上乗せによる騒音レベルの増加分は 1dB 未満であることから、周辺の騒音レベルに大きな影響を及ぼすことはないと予測する。

工事用車両の走行にあたっては、施工方法や手順等を十分に検討し、工事用車両が特定の期間・時間に集中しないよう平準化に努める等の環境保全のための措置を講じる。

以上のことから、道路沿道環境の現状を悪化させることはなく、生活環境の保全に著しい支障はないものと評価する。

